



平成 26 年 3 月 14 日

報道関係各位

ACC カンヌライオンズ「ヤング クリエイティブ コンペティション」  
国内選考会結果発表

フィルム部門、プリント部門でそれぞれファイナリスト 4 チームを選出。  
ワークショップを経て、日本代表各 1 チームを決定。

一般社団法人 全日本シーエム放送連盟

一般社団法人 全日本シーエム放送連盟（略称：ACC、東京都港区、理事長：高田 坦史）は、国際的に通用する若手クリエイターの育成を目的とする、ACC カンヌライオンズ「ヤング クリエイティブ コンペティション」国内選考会を 3 月 14 日に実施しました。選考会を開催して慎重に審査した結果、フィルム部門に辻中 輝さん・松永 美春さん（電通）のチーム、吉兼 啓介さん（博報堂）・大野 大樹さん（AOI Pro.）のチーム、金子 紗与さん（東北新社）・代田 栄介さん（マザーズ）のチーム、谷本 潤哉さん（電通）・石川 貴之さん（電通クリエイティブ X）のチーム、プリント部門に上遠野 茜さん・岸田 麻里さん（電通）のチーム、矢部 千尋さん・上西 祐理さん（電通）のチーム、小川 貴之さん・戸澤 麻理子さん（博報堂）のチーム、國分 足人さん・藤本 大生さん（博報堂）のチームのそれぞれ 4 チームがファイナリストとして選出されました。

今回の国内選考会では、フィルム部門が「世界アルツハイマー月間」、プリント部門が「Every One（全ての子供に 5 歳の誕生日を）」をテーマに広告を制作していただきました。英語によるオリエンテーション後、規定時間以内に作品を提出していただくという現地同様の方法で行い、その応募広告をカンヌライオンズ審査員経験者によって審査しました。本年はフィルム部門 61 チーム 122 人（昨年は 76 チーム 152 人）、プリント部門 112 チーム 224 人（昨年は 122 チーム 244 人）が応募、熱戦を繰り広げました。ファイナリスト選考会は 3 月 14 日に行われ、その結果は当日午後 6 時 30 分より開催されたファイナリスト発表会で発表しました。

ファイナリストは 4 月にトップクリエイターが行うワークショップ（第 2 次選考）に参加し、最優秀各 1 チームが日本代表として選出されます。

見事日本代表に選ばれたチームには、6 月にフランス・カンヌ市で開催される「カンヌライオンズ国際クリエイティビティ・フェスティバル（通称：カンヌライオンズ）」の「ヤングクリエイティブ コンペティション」に参加し、世界各国代表の若手クリエイターとクリエイティブ・アイデアと表現技術を競うことになります。なお、昨年 2013 年カンヌライオンズ「ヤング クリエイティブ コンペティション」では、フィルム部門で出場した日本チームが見事ブロンズを獲得しました。

当連盟国際委員会は、海外の著名広告コンクール結果を紹介していくことで、常にわが国のクリエイターに新しくグローバルな情報を提供し、CM の質的向上に努めております。海



一般社団法人 全日本シーエム放送連盟

〒105-0004 港区新橋 3-1-11 長友ランディックビル 5F TEL.03-3500-3261

外広告賞の中で、最も権威があると称されている「カンヌライオンズ」については、ACCは、現地視察ツアーのご案内、現地会場でのACCラウンジ開設及び専用登録ブースの設置、フィルム部門審査員選考、そしてカンヌライオンズ「ヤング クリエイティブ コンペティション」日本代表チーム選出・派遣といった活動を行っております。

実施要領と結果は別紙のとおりです。

この件に関するお問い合わせ先  
(一社) 全日本シーエム放送連盟 (ACC)  
〒105-0004 東京都港区新橋 3-1-11 長友ランディックビル 5階  
電話 03-3500-3261 FAX 03-3500-3263  
ホームページ <http://www.acc-cm.or.jp>  
担当：藤井 小原



**ACC カンヌライオンズ「ヤング クリエイティブ コンペティション」国内選考会  
結果と実施要領**

<結果>ファイナリスト ※ワークショップを経て、日本代表各1チームを選出します。

**【フィルム部門】**

辻中 輝さん、松永 美春さん（株式会社電通）のチーム

吉兼 啓介さん（株式会社博報堂）、大野 大樹さん（株式会社AOI Pro.）のチーム

金子 紗与さん（株式会社東北新社）、代田 栄介さん（株式会社マザーズ）のチーム

谷本 潤哉さん（株式会社電通）、  
石川 貴之さん（株式会社電通クリエイティブ X）のチーム

**【プリント部門】**

上遠野 茜さん、岸田 麻里さん（株式会社電通）のチーム

矢部 千尋さん、上西 祐理さん（株式会社電通）のチーム

小川 貴之さん、戸澤 麻理子さん（株式会社博報堂）のチーム

國分 足人さん、藤本 大生さん（株式会社博報堂）のチーム

<スケジュール>

オリエンテーション	2月14日（金）プリント部門／フィルム部門
作品提出	2月17日（月）プリント部門 13：00～14：00 フィルム部門 16：00～17：00
選考会	3月14日（金）
ファイナリスト発表会	3月14日（金）18：30～選考結果発表と講評、参加者懇親会
ワークショップ	4月中旬 ＊日本代表チームの決定
カンヌライオンズ	6月15～22日

<オリエンテーション> 審査員が英語でオリエンテーションと課題の発表をしました。

<審査員> （敬称略）

鏡 明（審査委員長／ドリル）、大谷 義智（読売広告社）、河野 俊哉（博報堂）  
佐藤 カズー（TBWA\HAKUHODO）、藤井 徹（アサツー ディ・ケイ）、  
古川 裕也（電通）、溝口 俊哉（マッキンゼーエリクソン）



<課題>

【フィルム部門】

■ テーマ：世界アルツハイマー月間 / World Alzheimer's Month

■ クライアント：

Alzheimer's Disease International (ADI) / 国際アルツハイマー病協会

■ 提出物：Film 30秒 (on TV&Internet)

■ テーマについて：

毎年9月21日は世界アルツハイマーデー、そして、9月はアルツハイマー月間です。国際アルツハイマー病協会（ADI）が、一般の人々へ認知症の理解を推進し、また、本人や家族への支援を目的に、1994年に制定されました。

認知症は、世界の多くの場所ではまだ、「正常な老化の一部」だと思われています。しかし、それは大きな誤解で、認知症とは、医学的には「知能が後天的に低下した状態」とされています。もともと健常であった脳が、脳血管疾患や脳内の神経細胞の異常が原因で、脳の働きが悪くなり、「物忘れや妄想、幻覚、人格崩壊」といった症状を引き起こす状態をさします。単に、老化によって物覚えが悪くなるといった状態とは違うのです。

国際アルツハイマー病協会のマーク・ウォルトマン理事長（Marc Wortmann, Executive Director）は「認知症の症状と早期診断、治療と介護の重要性に対する社会的な認知は遅れている。認知症に対する社会的な理解を促し、認知症のスティグマ（不名誉の印）を徹底的に縮小することが重要だ」と指摘しています。

そのためにも、家族や本人にとって、社会的な支援だけでなく、地域住民（全ての生活者）の理解と支えがとても大切なのです。

■ 目的

2013年9月、世界アルツハイマー月間に「アルツハイマーは、誰にでも起こりうる病気であり、社会全体で理解し、サポートしていくことが大切な病気であること」を新しいアイデアとともに、伝えてください。

■ ターゲット

主なターゲットは、18歳から40歳でソーシャルメディアキャンペーンにインパクトを与えることのできる人たちと考えます。



**【プリント部門】**

■ テーマ : Every One (全ての子供に5歳の誕生日を)

■ クライアント : Save the Children

■ 提出物 : 雑誌見開き / 2-page magazine spread

■ テーマについて :

「Every One」は、Save the Childrenのグローバルキャンペーンです。全ての子供たちの生きる権利、健やかに成長する権利を守るため、2009年より2015年にかけて実施しているキャンペーンです。

世界の5歳未満で亡くなる子供たちは、1日18000人。年間では、約660万人の5歳未満の子どもたちが、予防や治療が可能な病気で命を落としています。2000年の国連ミレニアム・サミットにおいて世界のリーダーは、2015年までに、5歳未満の子どもの死亡率を1990年の3分の1に引き下げることが約束しました。

しかし、いまだに何百万人もの子どもと母親が基礎的な保健医療を受けることができません。また、死亡数は年々確実に減少していますが、今のままのペースで行くと、目標を達成できるのは2028年になると言われています。2015年までに目標を達成するためには、今よりも4倍のスピードで死亡率を削減しなければなりません。

■ 目的

すべての人の力が集まれば、子供たちの命を救うことができます。一人でも多くの生活者にこの事実を知ってもらい、Save the ChildrenのWEBサイトに訪れ、寄付を申し込むよう促してください。

■ ターゲット

主なターゲットは、15歳から60歳で経済的に自立しており、ソーシャルメディアにアクティブに参加するメンバーであり、個人の寄付をいとわない人々です。

<選考結果発表>

選考の結果は、審査当日にファイナリスト発表会を開催し、その席でファイナリストの発表を行いました。ファイナリスト発表会会場には、全エントリー作品が掲示され、発表の際に審査員から講評をいただきました。発表会にはエントリーチーム全員を招待し、国際委員会委員及び関係者も出席しました。

<カンヌライオンズ 国際クリエイティビティ・フェスティバル 日本代表>

株式会社東映エージェンシー



<協力と協賛>

ゲッティ イメージズ ジャパン株式会社 **gettyimages®**

カンヌライオンズ公式イメージプロバイダー会社であるゲッティ イメージズの日本法人より本コンペティション・プリント部門へ素材の提供をいただいております。

- 株式会社アサツーディ・ケイ
- 株式会社オムニバス・ジャパン
- 公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
- 株式会社東北新社
- 株式会社博報堂

<カンヌライオンズ ヤング クリエイティブ コンペティションとは>

1995年から始まったカンヌライオンズのスペシャルイベントとして注目される催しです。世界30ヶ国以上の国別代表チーム(28歳以下のクリエイター)が出場し、現地で出題された同一課題に対して規定時間以内に広告を提出し、競うクリエイティブコンペティションです。1位~3位のチームが現地の表彰式で顕彰されます。

<ご参考：これまでの国内選考会の課題と日本代表チーム(敬称略)>

【フィルム部門】

年	課題	優勝者
2006	フカひれの需要を抑制する	(株)電通 佐藤玲彦、大島美緒
2007	もっと歩こう!	(株)電通 北田有一、(株)葵プロモーション 菊池浩史
2008	もっと読書を!	オグルヴィ・アンド・メイザー・ジャパン(株) 杉山元規、長部洋平
2009	ネットいじめ	(株)アサツー ディ・ケイ 武井哲史、(株)東北新社 高島夏来
2010	フードマイル	(株)博報堂 小笠原 健、徳野 佑樹
2011	水の危機	(株)ダンスノットアクト 上野 恵、(株)読売広告社 山澤 雅之
2012	廃棄物ゼロ	(株)パーティー 六反 孝幸、(株)ハット 竹林 亮
2013	EARTH HOUR	(株)電通 長久 允、佐藤 雄介

【プリント部門】

年	課題	優勝者
2003	遺伝子組換食品	(株)電通 山田慶太 佐藤 拓
2004	ユニバーサルデザイン	(株)電通 藤井亮、張間純一
2005	小児肥満問題	(株)電通 後藤一臣 神原秀夫
2006	少年犯罪	(株)博報堂 下東史明 宮脇亮
2007	動物園で虐待されている動物の救護	(株)アサツー ディ・ケイ 青柳有美子、砥川直大
2008	少年兵の禁止	(株)ライトパブリシテイ 大野瑞生、武田正文
2009	アニマルセラピー	(株)電通 工藤真穂 土居美由希
2010	存在しない子どもたち	(株)電通 大山 徹、(株)電通テック 伊藤 真也
2011	ドメスティックバイオレンス	(株)電通 高橋 優、三國 菜恵
2012	児童労働	(株)電通 高田 麦、竹村 優奈
2013	野生生物の違法取引 根絶キャンペーン	(株)電通テック 大田 有香里、湧川 晶子